

JR九州連合情報

JRグループ労組連絡会

第18回分科会プロジェクト

JRグループ労組連絡会（JR連合）は12月9日、2022春季生活闘争方針や至近の経営状況等に関する意見交換を行うため、名古屋市内で「第18回分科会プロジェクト」を開催した。JR連合に集うグループ労組92単組の代表者が参加し、JR九州連合からも幹事会メンバーを中心に12人が参加した。



あいさつを述べる宮野企画部長

JR連合を代表して挨拶した宮野勇馬企画部長は「先日、連合より、全組合が賃上げに取り組むとする2022春闘の方針が示された。JR産業はコロナの影響からの回復が遅れており、厳しい春闘となることが予想されるが、中長期的な視点を持って取り組みをお願いする。本日の分科会プロジェクトを2022春闘勝利に向けての足がかりとしたい。」と述べた。

討議では、①工務、②運輸（整備）③運輸（車両・機械）④運輸（駅委託）⑤陸運、⑥物販、⑦ホテル、⑧一般と業種毎に8つの分科会に分かれ「会社の経営状況」「2022春季生活闘争方針の策定」の2つのテーマで意見交換を行った。

討議後は、JR九州連合の村中隆一副会長が一般分科会の報告を行うなど各単組の2022春闘への決意が表明された。

最後に、討議の結果報告を受けた鎗光俊勝事務局長（JR連合労働政策部長）が総括し、奥村敬弥代表幹事（JR東海連合・東海交通事業労組）が改めて、今回のプロジェクトを春闘へ繋げようと締めくくり、プロジェクトは閉会した。



一般分科会の報告を行う村中副会長

運輸（駅委託）分科会の討議に参加しました。東海交通事業労組・ジェイアール西日本交通サービス労組・JR九州サービスサポート労組のメンバーで意見交換をしました。同業種同士で悩みを相談したり課題を共有したりできるのは、分科会PJだからこそ出来る取り組みだと思いました。運輸（駅委託）分科会の共通の課題は「駅無人化が避けて通れない以上、駅のバリアフリー化に国や自治体の支援が必要」ということでした。（JR九州連合 吉田）

JR連合ふれあいキャンペーン

JR九州システムソリューションズ(株)

JR九州システムソリューションズ(株)は「プログラボ」と提携し福岡市内で子ども向けプログラミング教室を運営しています。

- * 幼稚園生～中学生まで
- * レベル別に応じたコース設定

無料体験会も実施中です。
興味のある方はぜひチェックを！



ロボットプログラミング教育を通じて
未来を担う子ども達の
「夢を実現するチカラ」を育みます

※画像はプログラボHPより

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.proglab.education/>

